# 航空の脱炭素化推進に係る工程表

(航空機運航分野におけるCO2削減に関する検討会)

国土交通省航空局 令和3年12月

●凡例

準備 2. 検討 フェーズ フェー

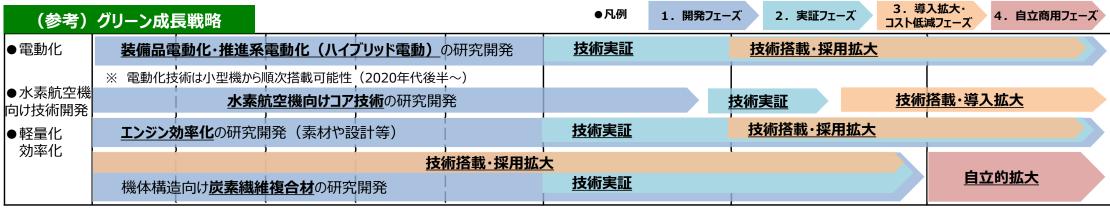
検討 3. 策定 フェーズ フェーズ 更なる取組

認証フェーズ

### 工程表の基本的な考え方

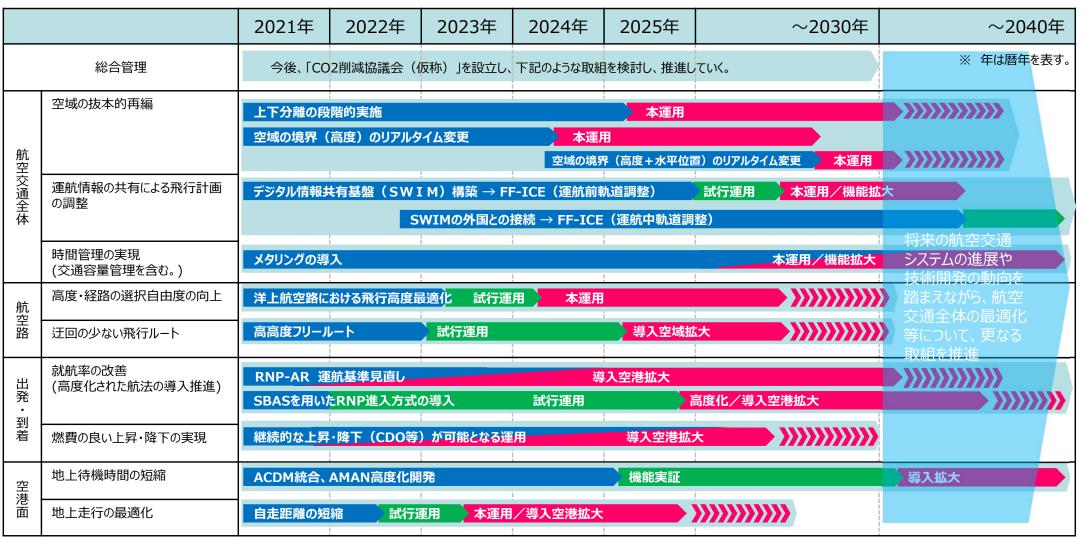
- 世界に先駆けて我が国の環境技術の実用化を進め、航空分野の環境対策を推進するためには、産学官が連携し、技術実証の開始(2025年~)までに、戦略的に安全 基準・国際標準の検討を進めることが重要。
- 2020年12月に策定されたグリーン成長戦略における航空機の技術開発に係る工程表を踏まえ、2022年度に設置する新技術官民協議会(仮称)において、2023年度以降の基準策定等の取組に関する計画を作成し、計画に沿って基準策定等を進めるとともに、並行して国内製造事業者の認証活動のサポート及び認証を行うこととする。





#### 工程表の基本的な考え方

- 航空交通量の増大に対応するととともに、運航効率の改善等によりCO2排出量の削減に取り組む必要がある。
- 将来の航空交通システムの進展や技術開発の動向を見越しつつ、航空交通全体の最適化と航空路・出発及び到着・空港面における運航フェーズごとの改善策それ ぞれについて、短期的取組を実行に移すとともに中長期的取組を段階的に推進していく。(今後の取組において、10%程度のCO2削減を目指す)

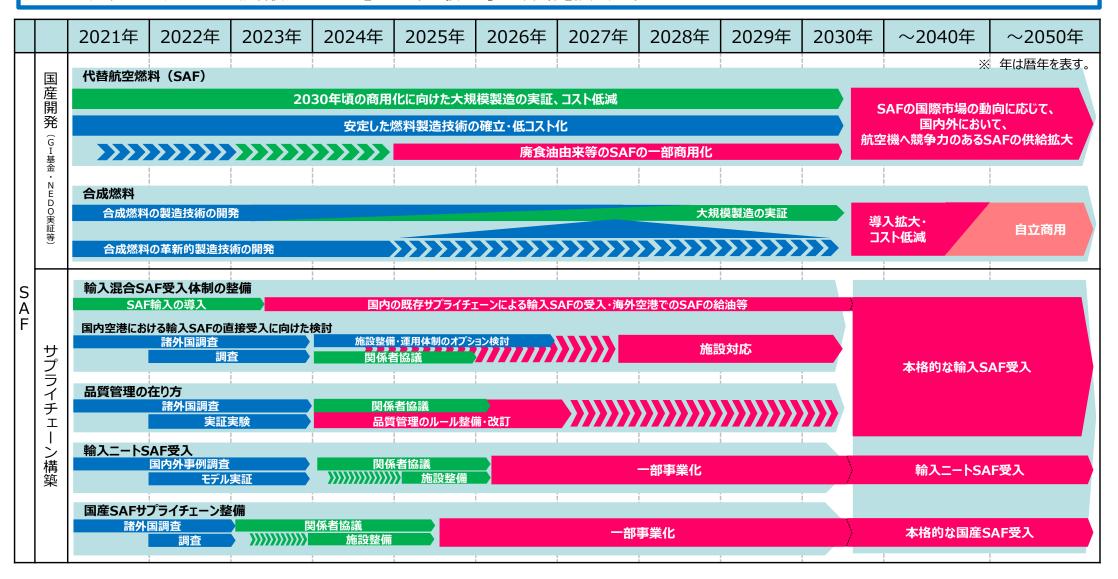


1. 調査·検討

フェーズ

#### 工程表の基本的な考え方

- 我が国において、SAFの導入・普及を促進していくためには、国際競争力のある国産SAFの開発・製造を推進することが重要である。同時に、SAFを活用するため のサプライチェーンを構築する必要がある。そのためには、供給量確保に向けた供給側、SAFのエンドユーザーとしての航空会社、導入支援策等を促進する政府な ど、各プレーヤーがそれぞれの役割を果たしていかなければならない。
- 取組を着実に進めるための方向性として、また、取組のマイルストーンとして、SAFの目標量を設定することが重要と考えることから、2030年時点のSAF使用量につ いて、「本邦エアラインによる燃料使用量の10%をSAFに置き換える」という目標を設定する。



## 工程表(③SAFの導入促進、炭素クレジット)

凡例 1

1. 調査・検討 フェーズ

2. 実証フェーズ

3. 本格運用・ 導入拡大フェーズ

